

記入年月日（西暦）	2019年9月24日	
データベース登録番号	GMIE-006	
氏名	坂内 正明	
氏名（ふりがな）	ばんない まさあき	
メールアドレス	bannai@innov.mie-u.ac.jp	
出身地	福島県	
生年月日	昭和25年8月25日	
日本技術士会会員区分	正会員	
最終学歴	東京農工大学大学院生物システム応用科学教育部博士後期課程修了	
技術士登録番号	43733	
技術士部門	総合技術監理, 機械	
その他の主要資格 （資格名、分類、レベル）	博士(工学), APEC Engineer, IPEA 国際エンジニア, エネルギー管理士, エネルギー・環境マネージャーキャリア段位 レベル4, 一級管工事施工管理技士, 公害防止管理者(騒音), ISO14000 監査人補	
専門分野	エネルギー, 環境, 産業分野の省エネルギー計画・実行	
所属区分（選択）	<u>独立自営</u> 勤務中 所属無し その他	
所属先／勤務先・名称	三重大学地域イノベーション学研究所（客員教授）	
連絡先	郵便番号	514-0008
	住所（都道府県）	三重県
	住所（市町村以下）	津市上浜町4丁目49番地上浜団地4号棟703
	電話	080-4171-7534
	FAX	
携帯番号	080-4171-7534	
語学（言語：英語等とレベル：初級、中級、上級等）	英語：上級	
主要業務経歴	地球温暖化抑制や省エネルギーシステムの計画から建設まで 昭和50年4月 株式会社日立製作所 入社 ・都市ガス供給パイプラインのシステム計画、圧力挙動解析 ・地域冷暖房プラントのシステム計画 ・産業系事業所への省エネ計画、省エネ機器の新規研究開発 ・省エネルギー、温室効果ガス削減を実現するエネルギーサービス事業（ESCO）の立ち上げとビジネスモデルの確立 ・ESCO 事業のリスクをヘッジする手法の研究と実プロジェクトへの適用、再エネ・省エネを核としたエネルギー事業展開 平成21年8月 株式会社日立製作所 退社 平成21年9月 三重大学大学院地域イノベーション学研究所 教授 ・学内からの温室効果ガスを削減するプロジェクト（スマートキャンパス）の計画から実現までの実証	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内企業の省エネルギーを実現する新規ビジネス立ち上げの研究・技術支援 <p>平成 28 年 5 月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネ大賞審査専門委員会委員 <p>平成 28 年 4 月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三重大学大学院地域イノベーション学研究所 特任・客員教授 (現在に至る)
コンサルタントとしての実績・受託業務内容	<p>三重県内を中心として国内企業に対し技術支援約 20 件 (一財)省エネセンターエネルギー使用合理化専門員, 同国際協力本部 上級専門職として省エネ診断, 国内外セミナー講師 省エネ相談プラットフォーム構築事業 専門家として企業の省エネ診断から実施までの支援業務 (三重県内 10 数社)</p>
地震・豪雨等災害に対して社会貢献できること *1 (内容・時間)	<p>次頁参照下さい。</p>
著書・論文・発明・表彰等 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 著書 熱設計ハンドブック(普及版), 朝倉書店 現代電力技術便覧, オーム社 図解 最先端半導体パッケージ技術のすべて, 工業調査会 大学でのスマートキャンパス実現に向けた展望, (株)日本能率協会総合研究所, 技術予測レポート2023 ・ 発明 特許 (国内16件, 米国1件) ・ 受賞 エコプロダクツ大賞 平成17年エコサービス部門 ESCO事業 経済産業大臣賞 環境大臣賞 平成18年度地球温暖化防止活動 対策技術・普及部門 環境省 経済産業大臣賞 平成20年「産業・民生分野へのエネルギーサービス事業展開による温室効果ガス排出削減の推進」 経済産業省 平成26年度省エネ大賞 経済産業大臣賞 (省エネ事例部門) 「全学をあげたスマートキャンパス構築による省エネ推進」
個人 Web ページ、blog 等	
情報公開の可否・意見・コメント等	<p>情報公開していただくことは可です。</p>

*1

災害への貢献

	貢献内容	内容の詳細
地震・豪雨等 災害に対して 社会貢献でき ること	・技術相談内容	防災を考慮した BCP（太陽光発電、蓄電池や自家発電設備）
	・復興まちづくりの助言	復興まちづくりのエネルギー計画について有識者として参画
	・施設改築修繕計画	防災関係施設の維持管理
	・被災現場緊急出勤	地すべり災害の二次災害防止対策の提案
	・貢献できる時間	週 2 日程度